

◆◆看護の統合実習

目的

看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。

目標

- 1 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。
- 2 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。
- 3 夜間の入院患者の状況、看護体制や業務を知ることにより、看護の実際の理解を深める。
- 4 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高めることができる。
- 5 これまでの学習を振り返り、将来の看護師像を描くことができる。

実習内訳

科目	実習内容	単位（時間）	時期
看護の統合実習	既習の知識・技術・態度を統合した実務に即した実習	72 時間	3 年次 後期
	夜間実習	8 時間	
	実践活動外学習時間	10 時間	
	合計	2 単位 (90 時間)	

実践活動外学習

項目	目的	内容	時間数
全体オリエンテーション	実習を円滑に行うために、実習の概要を理解する。	実習の目的・目標・実習方法・記録用紙について説明を受ける。	2 時間
フロアオリエンテーション	実習を円滑に行うために、病棟の概要を理解し、実習のイメージ化を図る。	病棟の概要、特徴、病棟の構造などの説明を受ける。	2 時間
看護技術の習得	安全に看護を実践するために、必要な看護技術を練習する。	実習に必要な看護援技術の練習を行う。	2 時間
実習のまとめ	統合実習での学びを明らかにし、学生間で共有し、自己の課題を明確化し、自分の目指す看護師像を考える。	実習目標の達成度を評価し、自己課題を明確にする。統合実習での学びの共有や、看護観についての意見交換を行う。	4 時間

看護の統合実習

行動目標	実習内容	実習方法
<p>1 病棟管理・看護管理の実際について理解できる</p>	<p>1) 病院組織における看護管理 (1) 看護組織としての機能 (2) 看護理念 (3) 看護方式 (4) 病院看護機能評価 2) 病棟管理者の役割と業務 (1) 患者状況の把握（病床管理） (2) 安全対策 (3) 看護職員の配置、業務内容把握と業務調整・人間関係調整 (4) 服務管理 (5) 職員の健康管理 (6) 他部門との連絡・調整 (7) 看護職員・看護学生の教育指導</p>	<p>1 -1)2) 病棟看護師長の実務を見学し、看護管理について学ぶ。</p>
<p>2 看護チームの協働・連携のための体制や業務調整の実際を理解する。</p>	<p>1) 看護チームリーダーの役割と業務 (1) 看護計画の実施・評価 (2) チーム内の連絡調整 (3) カンファレンスの運営・参加 (4) 翌日の業務調整 (5) 病院内外・他職種との連絡調整 (6) 緊急入院・救急時の対応 2) 看護チームメンバー間の協働・連携 (1) 業務の確実な遂行（点滴管理・モニター管理・ダブルチェック） (2) ケア時の連携、行動調整 (3) 受け持ち患者の病状変化による治療方針の変更への対応、看護計画の実施と修正</p>	<p>2 -1)2) チームリーダー、チームメンバーの業務を見学し、ジョブシャドウで学ぶ。 ① 実際の援助に入る患者へは、あらかじめ承諾を得る（看護師長へ依頼する） ② 看護場面の見学を通して、複数患者のケアの優先度や調整の仕方を学ぶ。 ③ 看護師とチームメンバーや他チーム、医師などの連絡調整の実際を見学する。 ④ 看護チーム全体で提供する看護業務はできる限り経験する。</p>
<p>3 受け持ち患者に必要な看護の根拠を明確にし、メンバー間で情報共有することができる。</p>	<p>1) 対象（家族）、医療チームメンバーとの意図的なコミュニケーション 2) 受け持ち患者の看護に必要な情報収集と整理 3) 受け持ち患者にとって必要なケア（既に行われているケアを含む）の根拠の明確化 4) 受け持ち患者の状況に合わせた援助の実施 (1) 受け持ち患者の全体像把握 (2) 受け持ち患者に必要な援助を実施して、評価 5) 受け持ち患者の状態と必要な看護について、メンバー間、看護チーム内で情報共有</p>	<p>4 -1)～5) 受け持ち患者に対して、行動計画を立案して看護を実践する。 ① チームメンバーの一員として、看護チームに入り、積極的にコミュニケーションを図り、情報を得る。 ② 受け持ち患者に日常行われているケアは根拠を明確にし、継続して実践する。新たなケアの必要性がある場合も根拠を明確にしてから実践する。 ③ 受け持ち患者に必要な看護について意見交換し、2人の患者に必要な看護援助を実施できるように情報共有する。</p>

<p>4 複数患者に提供される援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解できる</p>	<p>1) 複数患者の援助の優先順位と時間管理 (1) 援助実施の良否・優先度の判断 (2) 適切な時間での実施 (3) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整 (4) 看護の実践と評価・効果の判定 (5) 適時・適切な人への報告・連絡・相談・調整 2) 流動的環境の中での実践 (1) 患者の変化や作業の中断等</p>	<p>3 -1)2) 2名の患者を受け持ち、病棟で計画されている看護計画を参考に、自分の立案した看護計画を実施する。 ① 2名の受け持ち患者の援助の優先順位や時間配分を調整する。 ②患者に必要な検査や処置がある場合の時間配分の調整をする。 ③チームの一員として適切な人に相談し、指導・助言を受けながら実施する。</p>
<p>5 複数の患者を受け持ち、援助の優先度及び時間管理の必要性を踏まえて、計画的に実施・評価ができる。</p>	<p>1) 申し送り、カンファレンスにチームの一員として参加 2) 複数の患者への援助の実施 3) 安全・正確・効率的な診療補助技術の実施 4) 安全・安楽・自立をふまえた日常生活の援助の実施 5) 時間・動作・物品の経済性を考えた行動 6) 複数の患者の状況をふまえた援助の優先度の判断、時間の調整 7) 実施した援助、行動計画の妥当性の評価、翌日の計画への反映</p>	<p>5-1)~7) 2名の患者を受け持ち、看護を実践する。 ① 受け持ち患者へ看護師長および指導者からの説明後、倫理的配慮の文書にて承諾を得る。 ② 問題意識をもって看護チームの申し送り、カンファレンスに参加し、必要に応じて行動計画を修正する。 ③ 前日に患者のスケジュールを把握し、援助の優先度や適切な時間を考え、看護チーム内で調整する。 ④ 看護チーム内での情報交換（V Sの変動、状態の変化など）、報告をその都度行う。 ⑤ 診療補助技術については、安全面について留意すべき事柄を理解し、見学・一部実践する。</p>
<p>6 夜間実習の体験を通して、入院患者の状況、看護体制や業務を知ることにより看護の実際を理解する。</p>	<p>1) 夜間における看護体制・業務の理解 2) 日勤から夜勤への引継ぎ 3) 患者の状態把握の方法 4) 夜間における看護チームの協力・業務調整の実際 5) 夜間の検査、処置時の一部見学 6) 夜間の日常生活援助の理解 7) 夜間時間の患者の反応 (1) 家族面会時の患者の観察 (2) 家族面会がない場合の反応 8) 夜間の患者の安全確保の実際 9) 夜間の病棟管理体制の理解</p>	<p>6-1)~9)夜間の看護業務を夜勤看護師について、ジョブシャドウで学ぶ。</p>
<p>7 統合実習を含む実習での学びを振り返り、看護の専門家として自己の看護師像を描くことができる。</p>	<p>1) 実習を通しての学びと今後の課題の明確化 (1) 病棟管理・看護管理 (2) 夜間の患者の理解 (3) 複数患者への看護実践 (4) 医療チームにおける看護師の役割と機能 (5) 看護の実践力向上に向けて</p>	<p>7 -1) ① 実習を振り返り、自己の課題をまとめ、最終カンファレンスで発表し、共有する。 ② 看護の専門家として、責任を自覚し、目指すべき看護師像を明らかにする。</p>